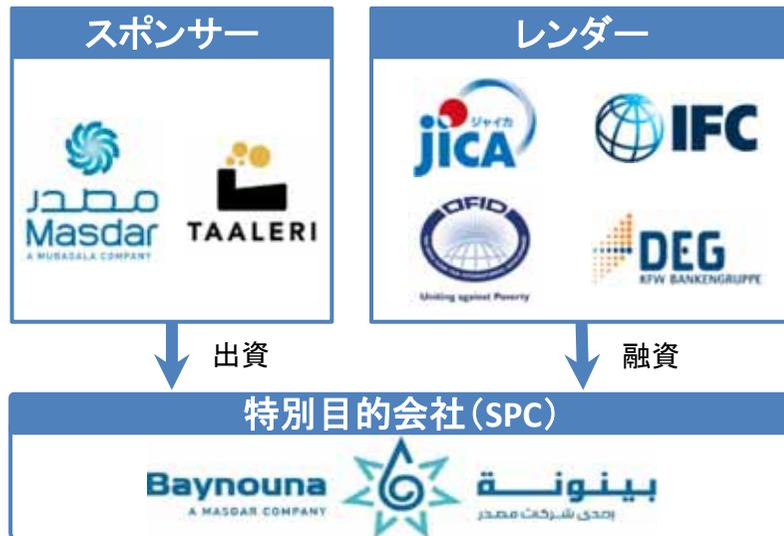


ヨルダン・ハシェミット王国 ムワツカル太陽光発電事業

【事業概要】

本事業は、ヨルダン・ハシェミット王国アンマン県ムワツカルにおいて、太陽光発電所及び変電所の建設・運営を通じ、電力供給増加と電源多様化を図り、もってヨルダンの経済発展、難民受入れホストコミュニティの電力需要への対応及び気候変動の影響緩和に寄与するもの。



▲イメージ図(本事業のスポンサーであるMasdarが
アブダビに建設した10MW太陽光発電所)

【事業の意義】

1. ヨルダン最大の太陽光発電事業

- ✓ 電力需要の増加や発電施設の老朽化に伴い、ヨルダンでは電力供給が逼迫。継続的な電源開発が必要不可欠。
- ✓ エネルギー源の97%を輸入に依存するヨルダンでは、輸入エネルギーに依存しない再生可能エネルギーを用いた電源開発が課題。
- ✓ 本事業はヨルダン最大の200MWの太陽光発電所を建設・運営し、上記課題解決に貢献。

2. 難民受入れホストコミュニティへの支援

- ✓ パレスチナやイラクからの難民に加え、特に2011年のシリア危機以降は、シリアから約65万人の難民が流入し、電力需要が増加。多くの難民は都市部のホストコミュニティで生活しており、本事業で建設される太陽光発電所はこのホストコミュニティに対して電力を供給。

3. 国際金融公社(IFC)等との協調融資

- ✓ JICAとIFCが、途上国で民間セクター向け協調融資を円滑に行うため締結した業務協力に係る覚書(注1)に基づく2件目の協調融資事業。
- ✓ 本事業ではDEG(注2)、OFID(注3)とも協調融資を行っている。

•(注1)JICAとIFCの間で、途上国の民間セクターに対する協調投融資促進のために2017年5月に締結した覚書。

•(注2)ドイツ投資開発公社 Deutsche Investitions-und Entwicklungsgesellschaft mbH

•(注3)石油輸出国機構国際開発基金 OPEC Fund for International Development